



理数学習推進部 次世代人材育成事業説明

令和5年6月26日
全国科学館連携協議会

JST 科学技術振興機構

Japan Science and Technology Agency

1

次世代人材育成事業 概要

将来にわたり、日本が科学技術で世界をリードしていくためには、次代を担う才能豊かな子ども達を継続的、体系的に育成していくことが必要。そのため、初等中等教育段階から優れた素質を持つ児童生徒を発掘し、その才能を伸ばすための一貫した取組を推進する。

事業概要

小学校 → 中学校 → 高等学校 → 大学 → 社会

次世代の多様な科学技術イノベーション人材の創出

トップ人材育成
(将来のグローバルリーダー育成)

裾野の拡大
(興味関心の喚起)

① **科学技術コンテストの推進**
理数系の意欲・能力が高い中高生が科学技術に係る能力を競い、相互に研鑽する場を構築・支援（各種科学オリンピック等の支援、科学の甲子園、科学の甲子園ジュニアの開催）

② **次世代科学技術チャレンジプログラム**
高校生を対象としたグローバルサイエンスキャンパス（H26開始）及び小中学生を対象としたジュニアドクター育成塾（H29開始）を発展的に統合。理数系に優れた意欲・能力を持つ小中高生を対象に、その能力のさらなる伸長を図る育成プログラムの開発・実施に取り組み大学等を支援

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）
生徒の科学的能力を培い、将来社会を牽引する科学技術人材を育成するために、先進的な理数系教育を実施する高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」として指定し支援

女子中高生の理系進路選択支援プログラム
【H18年～（JST実施はH21～）】
大学や関係機関におけるシンポジウム等において、科学技術分野で活躍する女性研究者等のロールモデルの提示等により、女子中高生の理系進路選択を推進

次世代の多様な科学技術イノベーション人材の創出

2

①次世代科学技術チャレンジプログラム

Japan Science and Technology Agency

3

次世代科学技術チャレンジプログラム(R5～)

R5～  次世代科学技術チャレンジプログラム
Science and TEchnology chaLLenge program for next generAtion

●支援期間5年

- NEW・小中高型 : 4,000万円/年
- ・高校型 : 3,000万円/年
- ・小中型 : 1,000万円/年

●応募できる機関

- 国公立大学、高等専門学校
- 公的研究機関、科学館、博物館
- 公益法人、NPO法人、民間事業者

●育成を目指す人材像

- ・グローバルに活躍する人材
- NEW・特定分野で活躍する人材
- NEW・地域で活躍する人材等

●育成プログラム

- 探究、STEAM、アントレプレナー
- シップ、社会課題解決等を軸とした
- 機関の特徴を活かした設計

H29～

ジュニアドクター育成塾 支援期間5年 1,000万円/年
 ・小学校5・6年生及び中学1～3年生
 ・将来の科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材

H26～

グローバルサイエンスキャンパス(GSC) 支援期間4年 3,000万円/年
 ・高等学校段階の生徒(高専は3年生まで)
 ・将来グローバルに活躍し得る傑出した科学技術人材

- ・R5～新規公募なし
- ・実施中の機関は継続

Japan Science and Technology Agency

4

4

ジュニアドクター育成塾

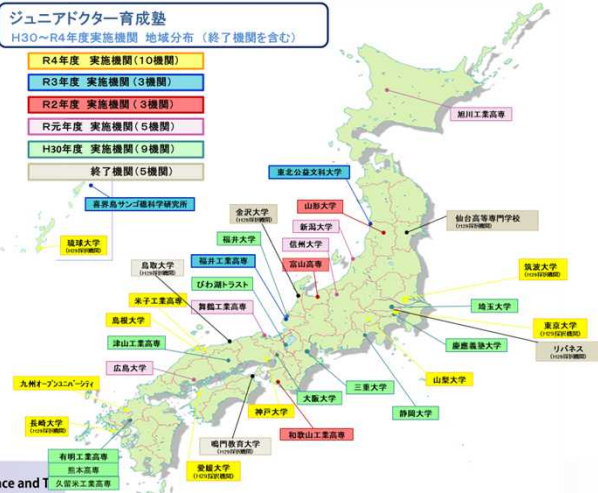
趣旨

科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材の育成に向けて、高い意欲や突出した能力を有する小中学生を発掘し、さらに能力を伸長する体系的育成プランの開発・実施を行うことを支援する。

ジュニアドクター育成塾

H30～R4年度実施機関 地域分布 (終了機関を含む)

- R4年度 実施機関 (10機関)
- R3年度 実施機関 (3機関)
- R2年度 実施機関 (3機関)
- R元年度 実施機関 (5機関)
- H30年度 実施機関 (6機関)
- 終了機関 (5機関)



- 採択機関数
 - ・H30年度採択機関: 9機関 (応募16件)
 - ・H31年度採択機関: 5機関 (応募15件)
 - ・R2年度採択機関: 3機関 (応募10件)
 - ・R3年度採択機関: 3機関 (応募9件)
 - ・R4年度採択機関: 10機関 (応募17件)
- 実施機関
 - 全国の国公立大学、高等専門学校、公的研究機関、科学館、博物館、公益法人、NPO法人、民間事業者等
- 支援期間
 - 最大5年度間
- 支援額上限: 1,000万円 / 1機関・1年間
- 対象: 小学校5年生～中学生
- 受講生数: 40名程度/年

Japan Science and Technology Agency

独立行政法人 科学技術振興機構

5

5

グローバルサイエンスキャンパス(GSC)

趣旨

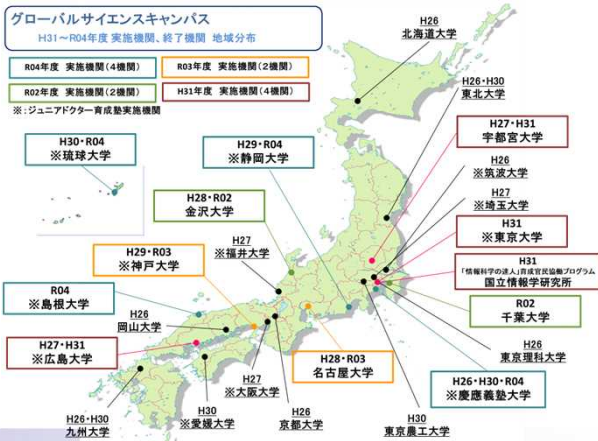
将来グローバルに活躍しうる傑出した科学技術人材を育成することを目的に、大学が都道府県教育委員会等と連携して地域の才能育成拠点としてコンソーシアムを組織し、地域ぐるみで卓越した意欲・能力を有する高校生等を募集・選抜し、国際的な活動を含む高度で体系的な、理数教育プログラムの開発・実施等を支援する。

グローバルサイエンスキャンパス

H31～R04年度実施機関、終了機関 地域分布

- R04年度 実施機関 (4機関)
- R03年度 実施機関 (2機関)
- R02年度 実施機関 (2機関)
- H31年度 実施機関 (4機関)

※:ジュニアドクター育成塾実施機関



概要(※「情報科学の達人」を除く)

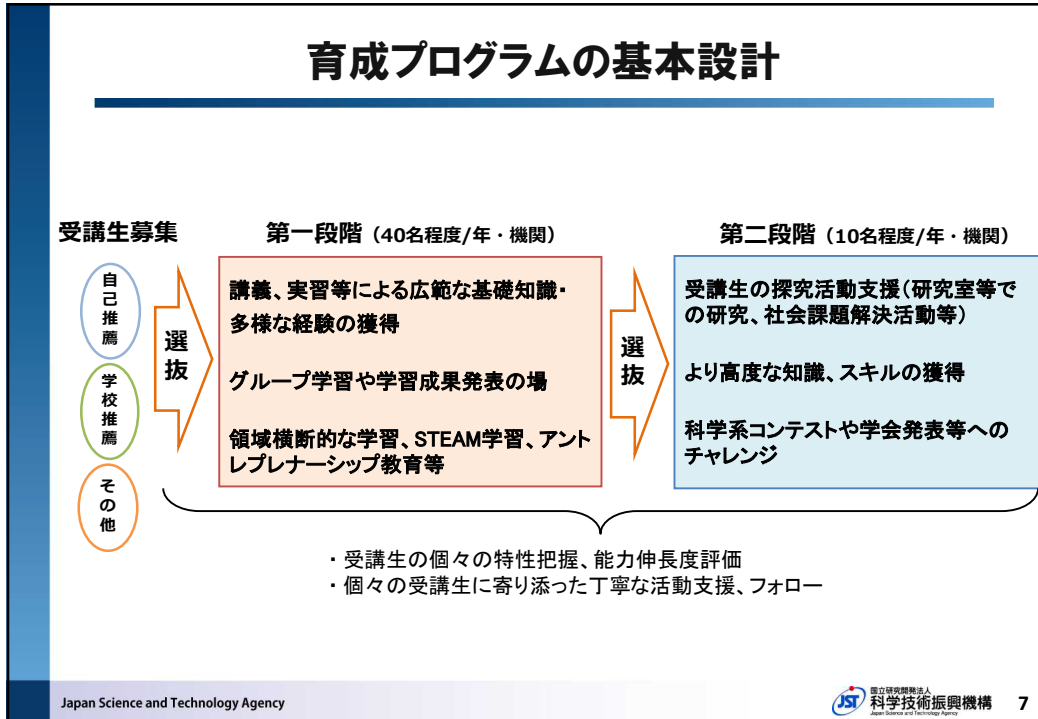
- 採択機関数
 - ・H31年度採択機関: 3大学 (応募8件)
 - ・R2年度採択機関: 2大学 (応募5件)
 - ・R3年度採択機関: 2大学 (応募3件)
 - ・R4年度採択機関: 4大学 (応募9件)
- 実施機関
 - 全国の国公立大学 等
- 支援期間
 - 最大4年度間
- 支援額上限: 2,500～3,500万円 / 1機関・1年間
- 対象: 高校生
- 受講生数: 40名程度/年

Japan Science and Technology Agency

独立行政法人 科学技術振興機構

6

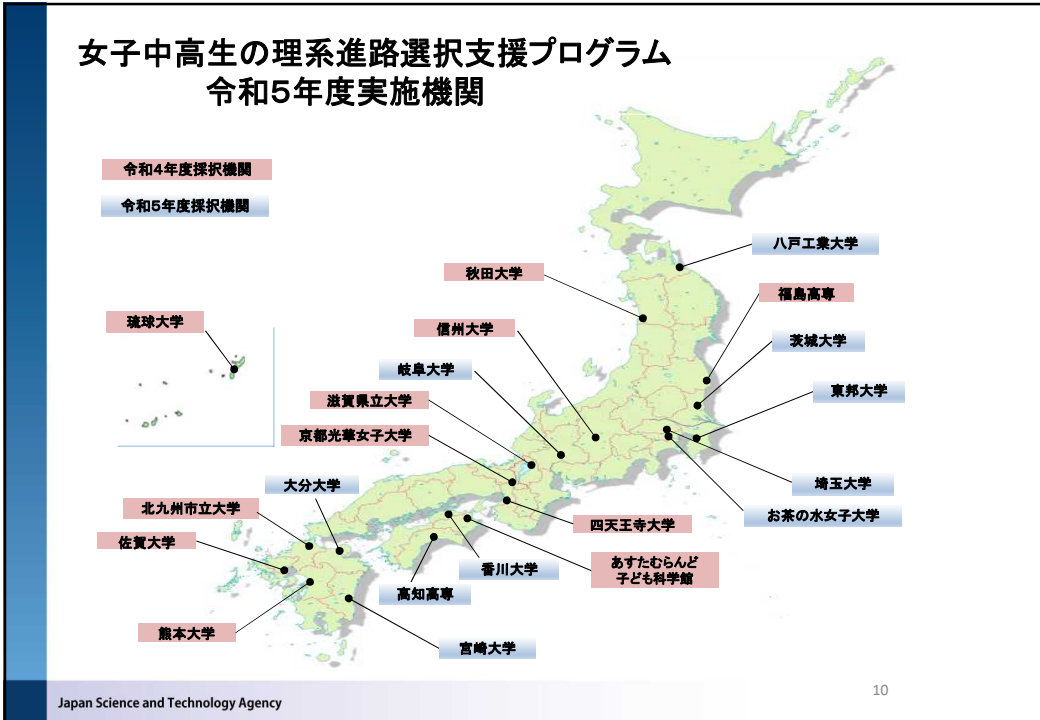
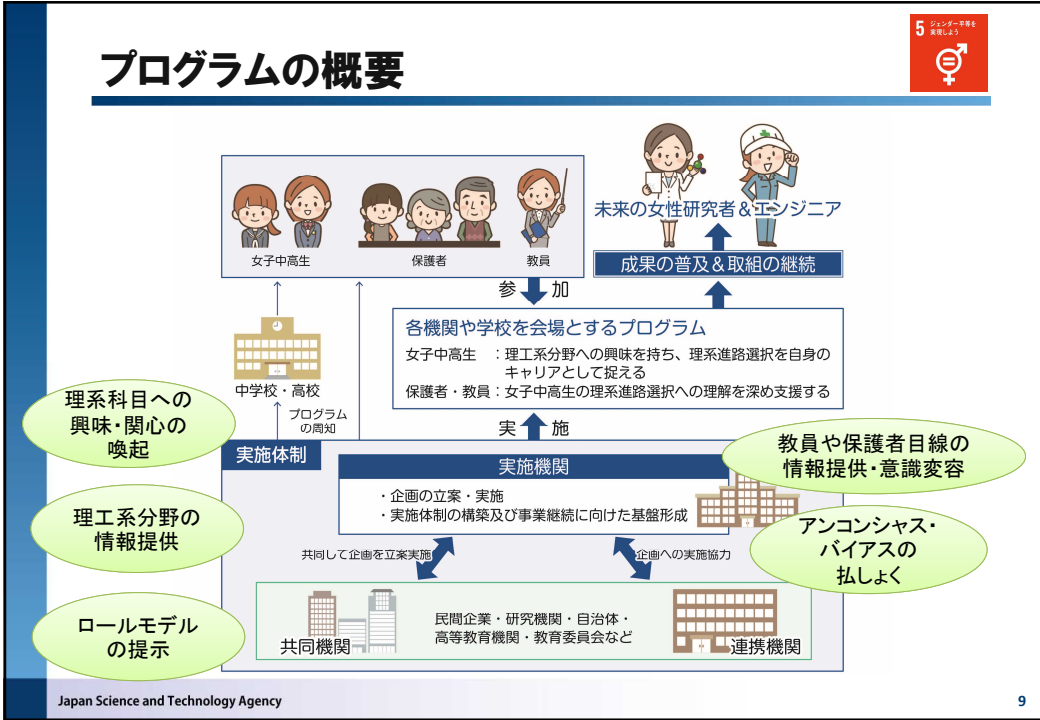
6



7

②女子中高生の理系進路選択支援プログラム

8



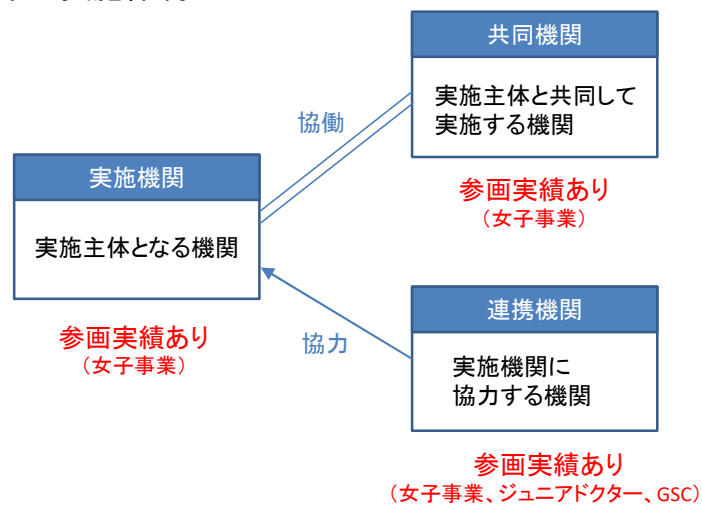
支援期間・支援金額

- 支援期間
最大2年間(年度毎の契約)
- 支援金額

タイプ	支援総額 (1企画あたり)	実施規模	コーディネータ等 の配置(雇用)
①	上限600万	都道府県	必須
②	上限300万		任意
③	上限300万	複数の市区町村	必須

科学館・博物館等の参画

■事業の実施体制



公募スケジュール(予定)

- 次世代科学技術チャレンジプログラム

1月下旬～3月上旬

- 女子中高生の理系進路選択支援プログラム

1月中旬～2月下旬

※公募説明会 実施予定あり

お問い合わせ

科学技術振興機構(JST)
理数学習推進部 能力伸長グループ

- 次世代科学技術チャレンジプログラム

E-mail: stella@jst.go.jp

HP : <https://www.jst.go.jp/cpse/stella/>

- 女子中高生の理系進路選択支援プログラム

E-mail: jyoshi@jst.go.jp

HP : <https://www.jst.go.jp/cpse/jyoshi/>

※個別のご相談にも対応いたします。